

National  
Parks  
of Japan



資料2

# 2021年から2025年までの 主な取組成果

2026年3月9日（月）  
環境省自然環境局国立公園課

# 国立公園満喫プロジェクト2021年～2025年の取組成果

2021年以降の取組方針		取組成果・評価	現状課題
推進の枠組み	(1)これまでの先行8公園等	<b>先行8公園をはじめとして、ステップアッププログラムを策定した13公園は</b> 、情報発信・コンテンツ造成、環境整備、景観向上等 <b>様々な取組を総合的に推進</b> し、他公園を牽引。	一部部会や協議会のマンネリ化、他省庁含む類似会議体の機能重複感あり。
	(2)他の地域への水平展開	2公園（三陸復興、磐梯朝日）において新たにステップアッププログラムを策定。13公園以外の国立公園においても、 <b>幅広く利用の取組を展開（全公園で展開）</b> 。また、国定公園における利用の取組の推進や、北海道東トレイルなど、広域的な周遊圏の構築が進んだ。	地域毎に取組の進捗濃度差が大きい。 国定公園における取組支援拡充の要望あり。
	(3)集中・総合的な取組を行うモデル地域	「 <b>宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上に向けた取組方針</b> 」を策定し、 <b>滞在体験の魅力向上先端モデル事業を開始</b> 。	—
具体的なアクション	(1)国立公園満喫プロジェクトの制度化	<b>自然体験活動促進計画、利用拠点整備改善計画</b> を自然公園法に位置づけ。少しずつ計画策定が進んだ。 <b>国立公園ブランドプロミスを策定</b> 。各公園でストーリー集・聞き書き集の作成、インタープリテーション計画の策定が進んだ。	インタープリテーション計画等、将来的に制度化に紐づく取組は進みつつあるものの、各法定計画の認定数はまだ少ない。
	(2)国立公園の新しい利用等幅広いターゲットを想定した情報発信とコンテンツ造成	Webサイトへの掲載アクティビティを拡充するなど、様々なプロモーションを実施。 また、 <b>全35公園で自然体験アクティビティを造成、約9割の公園でワーケーションのための環境整備を実施、延べ75地域で人材育成を実施</b> 等、利用の取組が進んだ。	個別取組は、運営体制や人材確保、事業性などの面で取組の継続性に課題がある。 公園全体の包括的な把握や取組間の連携、面的な取組が不十分な場合もある。
	(3)質の高さや快適性・環境保全に配慮された体験利用の推進と保護と利用の循環	適正利用を促すための限定ツアー、登山道等整備ツアー、アドベンチャートラベル等のコンテンツ造成、仕組みづくりのための調査・検討が進む。また、 <b>29の国立公園で入域料等の利用者負担の仕組みを導入</b> 。	各国立公園における利用者負担の取組が一部の地域に限られ、面的に広がっていない。
	(4)利用者受入れのための整備	<b>8,9割の公園で多言語整備事業や無線公衆LAN整備を実施</b> 。看板デザイン統一やデジタル展示整備など <b>利用者の利便性・安全性向上に貢献</b> 。 22地域のゼロカーボンパークが登録されたほか、宿泊事業を対象とした脱炭素、廃プラ、地産地消の取組、自然体験との連携等についてのガイドラインを公表。	多言語整備は一層進んだが、十分とまでは言えない。
	(5)滞在したくなる利用拠点を目指した景観の磨き上げ	<b>多数の利用拠点で廃屋撤去や電線地中化等の景観改善を実施</b> 。公園周辺関係者との統一的なルール構築の議論も進む。また、廃屋になることを防ぐための経営改善施策として中企庁と情報を連携。	依然として各地で廃屋の課題があり、取組が十分とは言えない。官民一体となった拠点全体としての上質化が必要。
	(6)官民連携の強化・広域的取組の発展	地域金融機関・地域交通機関とは、事業計画書策定や移動性向上など取組実装における連携・協力を実施。DMO/DMCと地域状況に応じた様々な連携、 <b>国立公園オフィシャルパートナー153社と連携が進む</b> 。	—

※ 1 第18回有識者会議資料について、一部更新

※ 2 2025年度は2026年2月末時点の値。以下同様。



# 推進の枠組み

- **先行8公園をはじめとして、ステップアッププログラムを策定した13公園\***は、**情報発信・コンテンツ造成、環境整備、景観向上等様々な取組を総合的に推進し、他公園を牽引**。国立公園も含め**幅広く利用の取組を展開**。
- 13公園以外の国立公園においても、**幅広く利用の取組を展開（全公園で展開）**。また、国立公園における利用の取組の推進や、北海道東トレイルなど、広域的な周遊圏の構築が進んだ。
- 「**宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上に向けた取組方針**」を策定し、**滞在体験の魅力向上先端モデル事業を開始**。

## 13公園(SUP策定公園)によるリーダーシップの発揮

これまでの先行8公園を含むステップアッププログラム策定13公園では、下表に示す様々な取り組みに関して、他の公園よりも高い実施率で取り組み、利用の取組が一層進んだ。

表：13公園と全公園の各取組実施率の比較

活動指標	実施率	
	13公園	全公園
上質なホテル・旅館	84.6%	68.6%
自然体験活動計画が記載された公園計画書数	38.5%	20.0%
利用拠点計画の策定数	30.8%	20.0%
管理運営行動計画(ステップアッププログラム含む)が記載された管理運営計画数	23.1%	8.6%
ワーケーションのための環境整備を支援した事業数	100%	91.4%
インタープリテーション全体計画の策定数	46.2%	37.1%
人材育成事業研修参加地域数	84.6%	80.0%
利用者負担の仕組み	100%	94.3%
ゼロカーボンパーク登録地域数	69.2%	45.7%
眺望確保・景観向上の為の取組を行った市区町村	92.3%	60.0%

## 利用に関する取組の幅広い水平展開による全体底上げ

- 総合展開型として、2公園（三陸復興、磐梯朝日）において新たにステップアッププログラムを策定。
- 個別展開型として各種取組を進め、感動体験創出事業、利用者負担の仕組みづくり、多言語整備事業、廃屋撤去等を全国の国立公園で進め、底上げを図った。
- また、全国7公園で5つのロングトレイルの取組が進行し、広域的な周遊圏の構築を進めた（Kita Alps Traverse Routeなど）。

## さらに高みを目指す公園での集中的な取組の実施

- 2023年に「宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上に向けた取組方針」を策定し、十和田八幡平、中部山岳、大山隠岐、やんばるの4公園において滞在体験の魅力向上先端モデル事業を開始。
- 4公園では、国立公園ならではの滞在体験を提供していくため、基本構想及び利用拠点マスタープランの検討や民間事業者誘致に向けたサウンディング等を引き続き実施中。
- また、2024年には「国立公園ならではの宿泊施設ガイドライン」も策定し、国立公園における宿泊施設の目指すべき姿を示した。

\*13公園：阿寒摩周、十和田八幡平、日光、伊勢志摩、大山隠岐、阿蘇くじゅう、霧島錦江湾、慶良間諸島、支笏洞爺、富士箱根伊豆、中部山岳、磐梯朝日、三陸復興

# (1) 国立公園満喫プロジェクトの制度化

## 主な取組

### 改正自然公園法による取組推進

- 2021年に自然公園法を改正し、自然体験活動促進計画、利用拠点整備改善計画等について自然公園法に位置づけ（2022年4月施行）。
- 各公園で改正法に基づく協議会が設置され、関係主体と連携した取組が着実に推進。

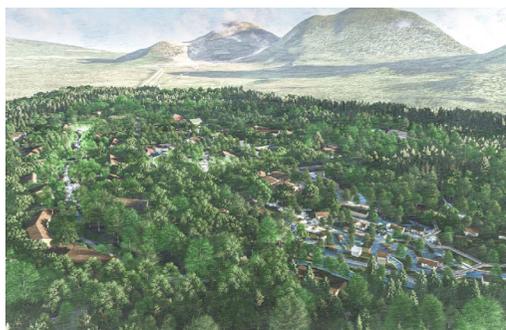
### ブランドプロミス策定とブランディングの推進

- 国立公園が来訪者・地域に約束することとして、国立公園のブランドプロミスを新たに策定。各個別事業をブランドプロミスの実現のためのブランディング活動として位置づけ、国立公園ならではの滞在体験の提供のための取組を推進。
- 各公園では、インナーブランディング及びアウターブランディングの取組としてインタープリテーション計画の策定を推進。

## 直近の主な取組成果

### ● 法定計画による取組の推進

- 利用拠点整備改善計画、自然体験活動促進計画について、合計6計画を認定。R7年度は、2地域の利用拠点整備改善計画を認定



阿蘇くじゅうNPにおいて2023年9月に自然体験活動促進計画を初認定

川湯地区の利用拠点整備改善計画（令和7年度認定）では「川湯温泉街まちづくりマスタープラン」に基づき、宿泊施設の新築や廃屋撤去を計画

表：各種計画の策定数及び認定数等（以下は全て累計値）

活動指標	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度*
自然体験活動計画が記載された公園計画書数	—	3	6	6	7
自然体験活動促進計画の認定数	—	0	1	3	3
利用拠点整備改善計画の認定数	—	0	1	1	3
利用拠点計画の策定数	—	27	32	33	33
ビジョン及び管理運営方針(保護と利用の方針)が記載された公園計画書数	—	—	3	3	5
管理運営行動計画(SUP含む)が記載された管理運営計画数	6	9	11	13	15

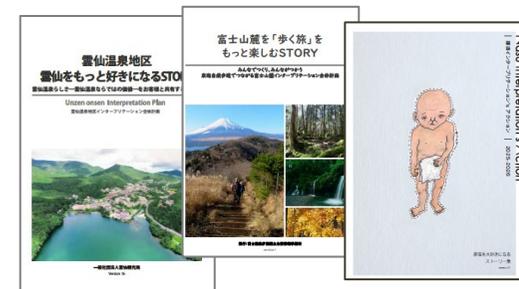
\* 2026年2月末時点

### ● ブランドプロミスの策定及びインタープリテーション計画の推進

- ブランドプロミスを取りまとめ、各事業をブランディング活動として位置づけ
- 国立公園の“物語”を、来訪者に、どのように伝えるかを分かりやすく整理したものがインタープリテーション計画の策定を推進



国立公園ブランドプロミス（2023年6月）



18のインタープリテーション計画を作成  
8地域において作成中

## (2)国立公園の新しい利用等幅広いターゲットを想定した情報発信とコンテンツ造成 (1/2)

### 主な取組

#### WebサイトやSNS等を活用したプロモーションの実施

- Webサイトへの掲載アクティビティを拡充するなど、様々なプロモーションを実施。
- 約3割の公園で管理事務所・自治体・VC等が公式SNSを運営。
- 国立公園の公式SNSフォロワー数は右の通り、増加傾向。

#### 体験の質向上を目的とした自然体験コンテンツの造成

- 「国立公園における自然体験アクティビティガイドラインVer.4」を2025年3月に改訂。
- 全ての公園にて補助事業等を活用した自然体験コンテンツ造成を実施。一部取組は、利用者の体験価値向上と収益化に寄与
- ワークーション環境整備は約9割の公園で実施。
- 延べ75地域からの参加者を対象に人材育成を実施し、利用の取組を推進。

活動指標	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度*
公式Instagramフォロワー数(千人)	116	118	119	125	131
公式Facebookフォロワー数(千人)	213	227	229	237	241
公式Youtubeチャンネル登録者数(千人)	5.2	5.6	6.1	6.7	17.3
JNTO国立公園ウェブサイトPV数(万PV)	5.5	12	33	44	32
環境省ウェブサイト(国立公園に、行ってみよう!) PV数(万PV)	4.9	107	88	130	116
OTA経由のコンテンツ予約数(人)	500	1,497	3,975	17,851	-
アクティビティガイドラインを満たす自然体験アクティビティ数	-	645	580	695	768
ウェブサイト掲載アクティビティ数	-	588	552	668	695
ウェブサイト掲載モデルコース集	-	30	37	38	47

\* 2026年2月末時点

### 直近の主な取組成果

#### ●大阪・関西万博での情報発信

大阪・関西万博のテーマウィーク「地球の未来と生物多様性」の期間に合わせ、国立公園の魅力を発信する体験型展示を行い、来場者へ「感動と学び」を提供



#### ●「国立公園に行ってみよう！」サイトの充実

環境省が作成した「国立公園ならではの自然体験アクティビティガイドライン」の一定の基準をクリアしたアクティビティを、環境省公式の「国立公園に行ってみよう！」サイトに掲載して周知



#### ●外国語の公式YouTubeチャンネル開設

これまで日本語・外国語の動画を1本の公式チャンネル上に掲載していたが、旅行検討段階における動画の重要性が高まる中、更なる訴求力向上を目指し、外国語動画を新たな専用チャンネルに集めて掲載



# (2)国立公園の新しい利用等幅広いターゲットを想定した情報発信とコンテンツ造成 (2/2)

## 直近の主な取組成果

### ● 国立公園における感動体験・アドベンチャートラベル創出事業の実施

#### 釧路湿原の「秘境」宮島岬における限定ツアー【釧路湿原】



- 壮大な釧路湿原の絶景を眼下に見下ろすことのできる宮島岬を核としたツアー
- これまで様々な課題があったが、土地所有者との調整や関係者による仕組みづくりを経て、認定ガイドの同行を条件とした限定ツアーを開発

#### 阿蘇地域を拠点とした長期滞在周遊型ツアー【阿蘇くじゅう】



- もともと阿蘇五岳や北外輪山を活用した高付加価値アクティビティは提供していたものの、日帰りが多く、阿蘇地域への滞在につながっていなかった
- 周辺エリアとの連携や、阿蘇地域内の宿泊施設を組み合わせたパッケージプランを開発することにより、阿蘇地域を長期滞在周遊の拠点に

#### 自然と暮らしの調和、平和の構築をテーマとしたアドベンチャーツアー【瀬戸内海】



- 世界遺産「宮島」からスタートし、広島市など瀬戸内海国立公園を周遊するスルーガイド帯同型ツアー
- アクティビティや地域の人との対話、原爆からの復興のストーリーを通して、参加者に自己変容を促している

### ● 国立公園アドベンチャートラベル手引書の作成

- 自然体験アクティビティを提供する観光事業者や関係者向けに、国立公園等におけるアドベンチャートラベルの推進支援を目的とした「国立公園におけるアドベンチャートラベルの手引書」を作成し、環境省HPに掲載して周知



# (3)質の高さや快適性・環境保全に配慮された体験利用の推進と保護と利用の循環

## 主な取組

### 限定利用やキャパシティコントロールの実施

- エコツーリズム推進法に基づく特定自然観光資源に指定し、限定的な利用体験を推進（阿寒摩周国立公園、西表石垣国立公園など）。
- 混雑対策としての事前予約制などの導入も一部地域において推進。

### 利用者負担の仕組みの導入

- 自然環境の維持・管理・保全を目的とした利用者負担の仕組みを全国約8割（29/35）で導入。ふるさと納税、クラウドファンディング等を含めると全国約9割（33/35）の国立公園で導入。
- 利用者負担による収受金を含む寄付金の約半数は、自然環境の保全や再生、環境汚染の軽減に充当されており、保護と利用の好循環に資する仕組みづくりが一定程度醸成されてきた。
- これまでの導入事例を踏まえ、「利用者負担ガイドライン」を作成中（R8年度末の公表に向け、検討中）。

## 直近の主な取組成果

### ● 限定体験の推進

- アトサヌプリ（硫黄山）では、エコツーリズム推進法に基づき入域制限を行うとともに、認定ガイド制度の仕組みを整備し、ツアーの開発・販売を実施
- カムイワッカ湯の滝では、利用者負担の取組と合わせて事前予約制を導入



アトサヌプリトレッキングツアー



カムイワッカ湯の滝（予約制の導入）  
出典：斜里町

### ● 利用者負担の取組の推進

- 大山などにおいて、入山協力金が新たに導入
- 上高地において「稜線バタークッキー」がR4年から販売開始。登山道保全に寄附

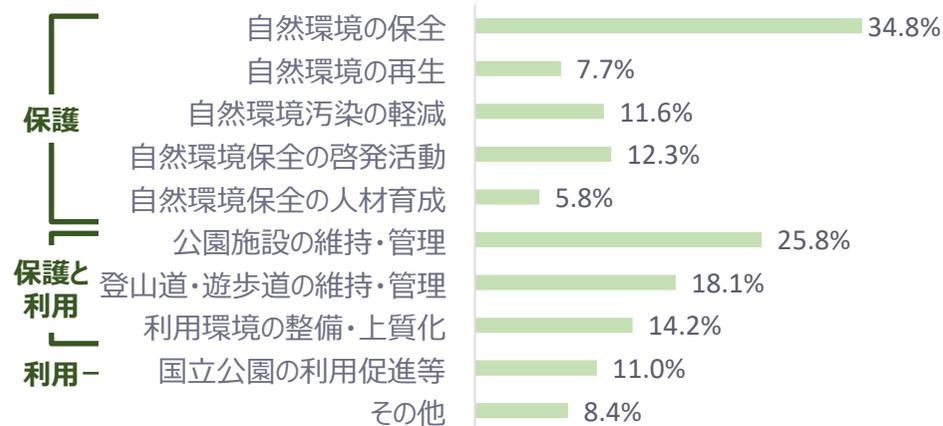


大山隠岐国立公園における  
入山協力金の導入（R4年）



6  
宿舎事業者による寄附型商品の販売  
(出典) JAPAN ALPS KAMIKOCHI  
Official websiteより引用

グラフ：利用者負担による収受金を含む寄付金の使途別割合(※)



※備考

**保護:** 自然環境をさらに豊かにするための直接的又は間接的な活動

**保護と利用:** 自然環境を保全しつつ、その恩恵を享受できるよう管理する活動

**利用:** 自然環境を人々が活用し、その恩恵を受けるための活動

# (4)利用者受入れのための整備

## 主な取組

### 利用者目線の受入れ環境整備

#### インバウンド受入環境の整備を推進

- 案内標識・展示やポスター・パンフレット・Webページ等の多言語整備事業や無料公衆LAN整備(75拠点)を推進。

#### ビジターセンターの機能強化に繋がる取組を推進

- ビジターセンター等直轄施設のユニバーサルデザイン対応直轄施設率は89.8%、当該施設へのデジタル展示導入は23件、カフェ、ツアーデスク、ショップ等の民間事業者導入は16件とサービスの質の向上を目的とした取り組みを進め、利用者満足度向上に寄与。

#### 環境配慮型の受入環境づくりの取組を推進

- 環境負荷低減のため、太陽光パネル導入、照明LED化、EV自動車導入、充電スポット・蓄電池設置等の省エネ・脱炭素の取組や、給水スポット設置、プラスチックバッグの提供廃止等の脱プラスチックに関する取組が進む。
- また、地元木材の活用による森林保全や産業活性化、地元食材の食堂・カフェ・お土産への活用など地産地消の取組も進む。
- 22地域のゼロカーボンパークが登録されたほか、宿泊事業を対象とした脱炭素、廃プラ、地産地消の取組、自然体験連携等のガイドラインを公表。

### 直近の主な取組成果

#### ●多言語整備の推進 【大山隠岐】

利用拠点である明屋海岸に設置している総合案内看板の内容の更新に併せて、多言語改修を実施

ネイティブのライターが現地を調査のうえ、訪日外国人にわかりやすい英文を作成。(R4)



#### ●ビジターセンターの機能強化

妙高高原VCオープン (R4)  
展示の他にも、カフェやショップなどの民間事業者の導入も行い、機能を充実化

妙高高原VC→

野呂川広河原IC リニューアル (R7)  
デジタル展示を導入し、展示機能を強化。  
日本初、気象データとAPI連携しリアルタイムの気象情報を表示



野呂川広河原IC→

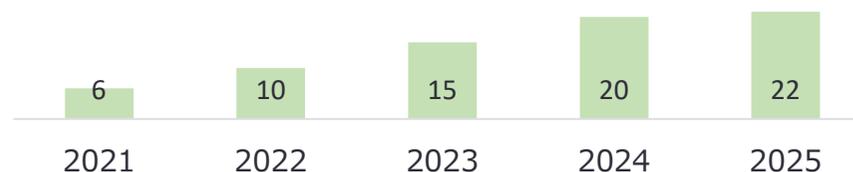


表：各事業の実施数

活動指標	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度*
利用環境の改善を行った山小屋数(補助事業者数)	—	6	7	2	4
多言語整備事業数	57	24	17	31	33
ユニバーサルデザイン対応の直轄施設の割合	84.1%	86.4%	88.6%	88.6%	87.6%
ZEB国立公園事業による補助事業数	16	9	4	3	1
公共有料駐車場のEV/FCV利用台数(自然公園財団管理駐車場)	521	775	536	602	486

\* 2026年2月末時点

グラフ：ゼロカーボンパーク登録地域数



# (5) 滞在したくなる利用拠点を目指した景観の磨き上げ (1/2)

## 主な取組

### 継続的な国立公園周辺の景観磨き上げの実施

- 多数の利用拠点にて廃屋撤去、電線地中化などの取り組みを実施。廃屋撤去後は、活用に向けた実証実験や事業者誘致等が進み、公園周辺の景観改善及びにぎわい創出に貢献。
- 一部地域では、地方自治体を中心に樹木伐採等を毎年継続。
- また、経営改善の方策として中企庁の取組の公園事業者・現場保護官への共有を図った。また、環境省の公園事業者の執行状況の適切な把握を推進。

### 直近の主な取組成果

#### ■ 利用拠点の上質化に向けた廃屋撤去 【十和田八幡平】



- 直轄の上質化事業による廃屋撤去第1号がR3.11に完了し、周辺の廃屋も順次撤去に着手。湖畔周辺に跡地空間を形成。
- 滞在体験の魅力向上に向けて、基本構想・利用拠点マスタープランを作成し、民間事業者の誘致に向けて検討を進めている。

表：国立公園内の景観磨き上げの取組実施状況

活動指標 (年度別)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度*
廃屋撤去した拠点数	4拠点	5拠点	2拠点	7拠点	4拠点
電線地中化など景観を阻害する施設の改善を行った市区町村数	16地域	27地域	9地域	12地域	2地域
眺望確保・景観向上を目的に樹木の伐採等を行った市区町村数	22地域	33地域	23地域	7地域	19地域
上質なホテル・旅館の数	-	145	172	215	234

\* 2026年2月末時点

#### ■ 観光拠点となる施設のリニューアル 【阿寒摩周】



- (上段) 摩周湖第一展望台レストハウスを回収し、「摩周湖カムイテラス」として2022年にオープン。
- (下段) REVIC連携協定も踏まえ、硫黄山エリアの硫黄山レストハウスを改修し、「硫黄山MOKMOKベース」として2023年にオープン。

# (5)滞在したくなる利用拠点を目指した景観の磨き上げ (2/2)

## 直近の主な取組成果

### ■ 利用施設の一体リニューアル (園地・湖畔・棧橋) 【支笏洞爺】



- ① 景観阻害となっていた棧橋の撤去、浮棧橋への一本化 (景観の改善)
- ② 水辺への容易なアクセスを実現するアプローチ路整備 (水辺へのアクセス向上)
- ③ 水辺の非動力船の残置解消のための管理ヤード (残置解消)
- ④ 遊休施設の駐車場の大部分を芝生化 (園地機能強化、幅広い利用へ対応)

### ■ 支障木の伐採による景観の改善 【磐梯朝日】



- ・ 全国の国立公園のビューポイントにおいて支障木を伐採し眺望を確保。
- ・ 2021年から2025年までにかけて延べ104地域で実施。

### ■ 廃屋撤去の推進

【霧島錦江湾】



撤去前の廃屋



跡地への飲食店誘致

景観を著しく阻害している廃屋を撤去し、R5、跡地にカフェ・お食事処が開業。休憩テラスを整備実施する等、地区全体で魅力向上が進む。

【阿蘇くじゅう】



阿蘇山上広場にある廃屋2棟の撤去完了。跡地活用について検討中。

【大山隠岐】



R4に撤去されたホテル



日御碕エリアにオープンしたグランピング施設

日御碕エリアにて複数の廃屋を撤去。一部跡地にグランピング施設<sup>9</sup>がオープン。

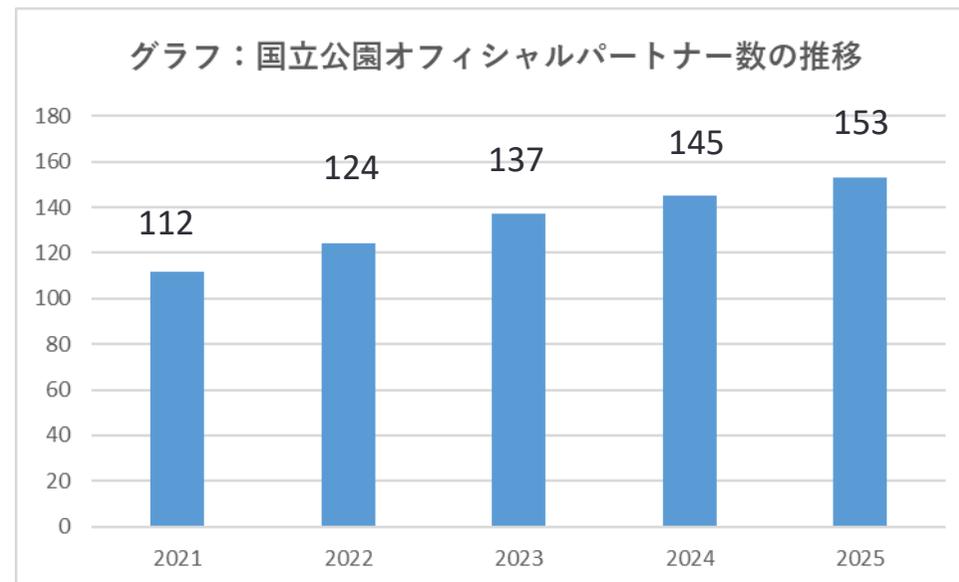
# (6)官民連携の強化・広域的取組の発展

## 主な取組

### 民間企業等との連携による更なる取組の発展

#### 国立公園オフィシャルパートナー数の増加、連携強化

- 国立公園オフィシャルパートナー数は2021年より41社増加。
- 全国各地の国立公園にて国立公園オフィシャルパートナーとの連携実施。情報発信、体験ツアー造成、環境スポーツイベントの開催等の国立公園への誘客だけにとどまらず、登山道整備や外来種対策のボランティアやツアー造成を行ったり、商品販売や電子マネーの売り上げの一部を寄付するなど、保護と利用の好循環による地域活性化の取組も多く実施された。



#### 地域金融機関及び地域交通機関との連携

- 地域金融機関とは、地域推進体制の協議や事業計画書策定、施設リニューアル、DX導入等、地域交通機関とは、混雑対策や情報発信、移動の利便性向上等で連携。

#### 地域DMO/DMCとの連携

- 地域DMO/DMCとは情報共有や意見交換、計画検討、コンテンツ造成、情報発信・プロモーション活動など、各地域レベルで様々な連携を行う。

## 直近の主な取組成果

### ● 国立公園オフィシャルパートナーによる取組の例

令和7年12月に新たに18社と締結し、合計153社に



電子マネーのチャージ額に応じた保全への寄付スキーム構築



地域の小学生と清掃活動の実施



Podcastで国立公園の番組を制作・発信

